

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名称	博物館協議会		
開催日時	24年9月13日（木） 午後6時00分～午後8時		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出席者	<p>沖野部会長 北沢副部会長 石森委員 岡本委員 小池委員 茅野委員                  名取委員 花里委員 浜委員 両角委員                  若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷博物館係長 柳川博物館係主査</p>		
欠席者	なし		
公開・非公開の別	公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>1 開会（博物館係長）</p> <p>2 第2回茅野市博物館協議会専門部会 会議結果報告書について                  沖野部会長と北沢副部会長から校正が出される。</p> <p>その他、訂正希望があれば、1週間内に事務局へ連絡をすることとなる。                  訂正程度なら、その後、会議結果報告書を公開することで了承された。</p> <p>3 協議</p> <p>展示室を作ったはよいが、客が入らないというのでは困るので、どのようにしていったらよいか。何が売りなのかというヒントを頂きたい。前回は科学技術の展示についての議論がなかった。科学技術については実験・体験を中心にした教室的なものを作るという議論がされてきたが、展示については必要がないのだろうか。ないならそのように進めていく。</p> <p>プラネタリウムについては、ドームを星空だけではなく、茅野の自然や文化といった多目的な映像空間にしたい。また、子供たちが番組作りができるようにしたい。去年の協議では、茅野北部中学校の望遠鏡を科学教育センターに移転する話があったが、このようなことも今回議論していただきたい。</p>		
沖野部会長	<p>前回、壁面が意外に使われていないのではないかと、余裕があるのではないかと意見があった。作っている展示物がある場に合わないのではないかと意見もあった。陸水のところにジオラマがあるが、川筋しかなく、地形主体なので、他のところに使えないか。これを移動すればこの辺りが模様替えできる。動植物との間に玄関みたいなのがあるが、これを取り外して連続性のあるものにしていけば展示部分も増えるのではないかと指摘もあった。</p> <p>全体としては平成24年2月4日茅野市博物館協議会展示替え専門部会・科学教育専門部会の答申の概要の「今後展示はいかにあるべきか」に書かれている課題の範囲内である。前回もこれに沿った議論が多かった。</p>		

名取委員	<p>新たに考えられるのは、デジタル化ということで、スマートフォンなどの機器と展示とどう結びつけていくかの課題、展示の物理的な面を空間的に広げるということを、今後討議していかなければならない。</p> <p>映像的に見られる仕組みが現在展示にあるが、静止画像が多いので、これを現代風にアレンジすればもっと有効に使えるのでは。展示の仕方の問題もある。</p> <p>また、欠落している分野で、気象関係や天文関係でいえばプラネタリウム、自然関係では菌類・昆虫類などがあるが、将来的には専門家に考えてもらうということになるし、非常に難しい展示である。興味がある人には映像で見られるという仕組みを作っていけば、あえて、絵として出す必要はないかと思う。いずれにしても、展示の手法を現代的にしていくのが良い。壁面の利用をもう一回見直すというのが一番大きい。鉱石の展示はよいが、もう少し細かく顕微鏡を使うなどの仕組みを工夫すればもっと楽しめるのではないか。展示の手法を現代的にしていけば課題としての見る・触れる・体験する・学ぶというところの不足部分を埋めることができるのではないか。改善のキーワードとして見る・触れる・体験する・学ぶが出ているので、展示の方もこれに沿って模様替えしていくのが望ましいのではないか。これまでの議論で欠落している部分について意見をいただきたい。新しい展示の手法など大きく変えられるところはどこか。分野をこえて一般的な話の方がよいと思う。</p>
北沢副部長 名取委員	<p>前回、地形・陸水と動植物の間の入り口と、立てた大きな屏風パネルの位置が悪く導線に沿って見にくいという話もあった。また、この間触れることができなかつた自然観察園の話もしていきたい。</p> <p>亜高山帯の針葉林のところ、前回沖野部会長が言った大きな樹木の切り株を置くというのは良い案だと思った。季節的なことは映像でできるが長い期間の話、現在、手持ちのシラビソの片板が展示してあるが、200年近い年輪がわかる。亜高山帯の針葉樹林の雰囲気は時間的な流れが感じられるものが、一つの指標となっている。実物があれば立体的に、切り株があれば年輪によって飢饉などの気候変動が確実にわかるので、長いスパンのわかる木があれば、座ったりして多目的に使える。ハイマツもあればよいと思う。</p>
沖野部会長	<p>着想はよいと思う。樹種は何がよいか。</p> <p>オオシラビソかシラビソの大きくて太いものがあればよいのではないかと思う。ダケカンバなどの常緑広葉樹も1種類あればよい。森林管理局で倒れそうなものがあれば貰ってくればよい。種類はなるべくたくさんあった方がよい。樹皮のざらざらしたものが実際に触れて、見て、座れるものがよい。また、葉で10年くらいのものであり、これがうまく展示ができれば、生産力などの話もできる。</p>
名取委員	<p>一般の人はシラビソとオオシラビソの識別がしにくい。識別は葉でも樹皮でもできる。その差が分かるような展示がよい。年輪と気候との関連がつけば総合的な展示ができる。</p>
北沢副部長	<p>測候所のデータと上手いけばよい。法隆寺の年輪でその年の気候がわかるという研究が進んでいるようなので、亜高山帯の年輪もわかると思う。それは八ヶ岳の木ではなくてもよいのではないか。</p>

名取委員	日本全体で連動していると思うが、できたら八ヶ岳の亜高山帯のものの方が良い。
北沢副部長	適当な木が八ヶ岳になかった時のことが心配される。
名取委員	できれば、人里のもので樺の大きなものがあればよい。それが岩石のところにあってもよいのでは。現在は、人里で木を切る機会が多くある。
北沢副部長	八ヶ岳に限定しなければ可能かもしれない。
沖野部長	西山も含めれば、結構手に入るのではないか。御柱に使った木はどうか。
北沢副部長	前回の御柱の時に切った根元はあるのか。
両角委員	御柱は根元から切り、大目に切り離して輪切りにしている。
沖野部長	御柱に使用する木はモミの木か。
名取委員	ウラジロモミだ。
沖野部長	ハイマツは難しいだろう。ハイマツは年輪ではなく葉や枝で年代がわかるというが。このようなことがわかる展示があれば、現場に行ってもわかるので面白い。分野を横断してわかる展示がよいのでは。
名取委員	鹿の剥製があるが、骨格標本があれば、見る人にインパクトを与える。触って見る骨格標本があれば良い。いま、鹿を狩っても埋めてしまう。
沖野委員	骨格標本を作るとなると大変だ。
小池委員	骨格標本を置くには場所のスペースが問題だ。
北沢副部長	茅野では今害獣駆除で鹿を捕っているが、骨格標本は作れるか。
名取委員	今は、鹿肉は流通にのせられない。山歩きをしていると、鹿の頭の骨はいたる所に落ちている。
両角委員	骨の展示は違和感がある。女性や子供は怖がる。陰で見れるという風にした方がよいのではないか。
茅野委員	進化などのテーマがあればよいが、いきなりあると驚く。
浜委員	恐竜の骨格標本は怖がらない。
両角委員	化石かどうかで違う。
沖野部長	骨格標本を使った特別展を開催するには、所蔵しなければならない。
茅野委員	テーマ性・ストーリー性のお話を以前からしているが、養川コーナーだけは、今の他の展示とは違っている。学習に使うには一番確かな利用がされている。一番有効に利用しているのは茅野市の子供たちである。ここで見て現地へ行っている。中学の先生で来てくれるのは社会科の専科の先生だけだ。
	小学校の先生では専科でない先生が多い。解剖実験などがあるが、とても苦労している。博物館へ行けば設備もあるし、解剖についての情報もある。
	体験する場所と展示する場所がバラバラではなく、体験と合わせてできるようにしたい。
沖野部長	科学教育センターができればそのような設備も作れるのだろう。そのようなことができる部屋は現在の博物館にあるか。
大谷係長	あるが授業ができるほどの広さはない。
浜委員	一度に展示のリニューアルをやることは難しい。毎年展示用として、予算をとって欲しい。展示のリニューアルが終わったら、入館者が展示替えたからといって増えるとは思えない。何か特徴的なものを出したい。七不思議とか諏訪鉄山や金沢金山・山城や諏訪湖のでき方などに、諏訪の人

<p>沖野部会長 浜委員 北沢副部会長</p>	<p>たちは興味を持っている。このような興味に応えられる博物館の展示になっていない。もう少し目玉を作った展示を今後考えていった方が良いのではないか。</p>
	<p>地質的に八ヶ岳のでき方とともに植物の進化など、地元に関わる展示物がよい。</p>
	<p>この間、岡谷で開催された活断層の説明会や、茅野の駒形遺跡の見学会があったが、たくさん人が来ており、興味を持っている人が多い。</p>
	<p>昔、両角源美さんが動植物の七不思議、私が地質についての七不思議についてやったが良かった。茅野市に限定する七不思議と限定しない七不思議があると思う。日陰の湯や茶臼山の向こうの地獄谷とか、縞枯れなどこのように考えれば出てくる。このようなものを、常設展示にしていくのか、特別展示にしていくのか。</p>
<p>沖野部会長</p>	<p>養川は特別展だけれど常設展のようになっている。特別展で、皆の興味が持続すれば、常設化していけばよいのでは。しかし、常設展示は一般的になってしまう。人が関わっていることに対して、人は興味がある。例えば、矢尻だけではなく、黒曜石の分布などやその周りの縄文人の住み方など。</p>
<p>両角委員</p>	<p>意外に茅野市民には黒曜石と麦草峠・冷山の話は知られていない。それは常設にしてもよいが見学会など開催すればよいのではないか。</p>
<p>北沢副部会長 両角委員 沖野部会長</p>	<p>タブレットを利用しながら、常設展示を見ながら、各種方面に見にいけるようにしたい。タブレットを展示のメインにすればよい。自分で調べながら見ることができれば良い。その場所に発展する部分を展示してもすべてを読むことはできない。ある程度自分で携帯できるもので、調べてその先へ行けるようにすればよいのではないか。</p>
<p>浜委員</p>	<p>今のことは展示の手法として大事な手法である。 自分の i-phone で見ることができれば尚良い。 逆に i-phone を見て、博物館に来るということもある。</p>
<p>石森委員</p>	<p>信州の魅力は大自然だと新聞に載っていた。人々がここへ来て、それから現場へ行くというセンター的な役割が博物館にできれば入館者が増えていくのではないか。</p>
	<p>コンテンツをどうするか。コンテンツはストーリー性のあることである。要するにここへきてくれることが重要である。ここへきてタブレットを使ってもらおうということだ。ここに来てもらうには、何か目玉がなければいけない。全国的な美術館博物館では機器使って様々なことが行われている。(ユビキタス案内システムの資料配布・説明) 県内でも始めたところがある。東京の銀座やデパートでは実証実験がされている。また、バリアフリーでは上野動物園で行われている。これはサービスの的に行われたものであるが、青森県立美術館がよく例に使われている。目玉は何かというとそれは常設展示ではなく特別展示に使うのが良い。リピートするには比較的長い期間のイベントを開催する必要がある。今の状態でこれを導入したとして、人が来るかどうか。</p>
<p>沖野部会長 石森委員</p>	<p>発信するのは例えば青森美術館がやるのか。 それは個別で発信している。茅野市は公立・私立の美術館・博物館が多くあるがハブ的な連携がない。サービスがないと遠くの博物館までいかな</p>

沖野部会長	<p>い。サービスがなければ良い道具・展示があっても客は来ない。機器などをどう使うのかを検討する余地がある。</p> <p>ハブ的にやるにはその博物館に専門でやる人がいないと大変だ。市自体がハブ的な機能を持っていて、情報を発信して呼び込むことが必要。茅野市は観光客が多くて有利なはずだが、生かされていない。</p>
石森委員	<p>観光政策が大きくクローズアップされているところに、上手くリンクできればよいが。茅野市のホームページで総合博物館のトップページを探しづらい。</p>
沖野部会長	<p>博物館から現場へ、現場から博物館へということが出来る機能が総合博物館に必要だ。</p>
小池委員	<p>養川コーナーの前は、未来コーナーだった。10年を経て、壊れて陳腐化していた。その時、坂本養川のことを東京書籍に掲載された。養川コーナーは急いで作ったので、足りないところもあるが、フィールドと展示がリンクできているのはこのコーナーが一番だろう。しかし、他の展示では、この展示を見て現地へ行ってみようということがあまりない。この博物館は、都会から見学者を呼ぶための博物館なのか市民が学習する博物館なのかを確認しておく必要がある。浜委員が諏訪の地質について興味があるという話があったが、この間岡谷で出土した断層について、それが茅野市にあり、それが展示に結び付ければ良いなと思っている。杖突峠の下に断層があるが、これを上手く使えないか。しかし、展示を見て、ここへ行けば見られるというのがない。養川の案内展示をしようと思ったが、危険な所が多いのでできなかった。現地を整備したうえで、考えていかなければならない。展示から市民がフィールドへ出るということが大事だと思っている。</p>
岡本委員	<p>理科教育の補充としての実験施設ということで昨年話していたが、展示でいえば、展示している背景に、理科学習の接点が見えてくることが大事だ。教科書と関連したものでないと難しい。教科書には簡単なことしか掲載されていないので、博物館に来るとしっかり見られるということ売りにしていけばよいのではないかと。タブレットで理科学習との関連が見えてくれば学校に対するアピールになる。</p>
茅野委員	<p>例えば火成岩については、そのコーナーに来れば全部が学習できるというようになれば魅力になるだろう。</p>
沖野部会長	<p>入口の通路をこの間、理科学習の中味と対応するかを展示するという話があった。理科学習と対応するパンフレット等があれば、先生達も使いやすと思う。</p>
浜委員	<p>プラネタリウムのことだが、諏訪南中学校の時のものは、とても評判が良く、郊外から色々な人が見に来た。プラネタリウムのある博物館は入館者が多い。岳麓文芸館をふさわしい場所を見つけて移動し、その後にプラネタリウムを作ればよいのではないかと。プラネタリウムを一つの目玉にしていけばよいのではないかと。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>どこに作るにしても、プラネタリウムはあるとよい。各学年に対応できるようにしたい。番組を業者から買って来たものではなく、自分たちで作れるものにしたい。プラネタリウムだけでなく本当の空と一緒に見られるようにしたい。そうすれば、半日や1日、人がいる博物館になる。ゆっく</p>

沖野部会長	<p>り、学習や実験ができるような博物館にしたい。</p> <p>展示が学習のどこに対応するかわかるような、博物館の宣伝用のパンフレットはあるか。厚いものではなく、簡単なもので。これがホームページに載っていればもっと便利だと思う。</p>
岡本委員	<p>長野市に理科教育センターは、各学校に割り振って、担任がそこで授業するということになっている。科学教育センターを考えるなら、例えば星のことならばここへ来て学習するという位置づけが必要である。また、半日ここにいるならば、地形や自然などの展示もきちっと見るようにするというのをすればよいのではないか。学校では星の学習に苦勞しているの、博物館に期待している。</p>
沖野部会長	<p>前日もカリキュラムとの関連についての話があった。学校ともう少し連携していかないとできない。一度できてしまえばあとはできると思うが。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>プラネタリウムの番組作りは学校の先生の意見を聞きながら一緒に作っていくことが大事だ。</p>
沖野委員	<p>上手くいけば市民もそれに乗ればよいのだと思う。</p>
花里委員	<p>プラネタリウムを見ても、実際の星空との関連がしづらい。庭で実際に星を見るとき、透明なドームを作ってみられるような工夫ができないか。</p>
沖野部会長	<p>望遠鏡もあって連動できるように。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>昔、プラネタリウムのドームが開いて、実際の星空が見られればよいと考えたが、プラネタリウムを見に来る人は、昼間見に来る。プラネタリウムは本物の星空に誘うツールとしたい。昼間しか来られない人のために昼の星を観察できるようにすると面白いのでは。</p>
大谷係長	<p>花里委員の希望される実際に端末が向いている星空を画面に示すスマートフォンのアプリが現在あり、現実的な話となっている。観望会に来る人で持っている人がいる。</p>
石森委員	<p>現在ヒットしているアプリである。</p>
沖野部会長	<p>そのような技術をうまく取り込んでいければ良い。野外との連携が取ればよいということか。</p> <p>館の西側の斜面に作る空中回廊とビオトープについて具体的に問題点があれば指摘して欲しい。</p>
両角委員	<p>北杜市白州町尾白と安曇野アルプス公園の空中回廊を見た。登って見ても鳥を見たことはない。博物館の庭に来る鳥も限られている。高さによって、ここにこの鳥が来るという説明もしづらい。博物館2階の展示に樹木切り株をとという話があったが、切り株や岩石というように手のかからないようなものがよいのではないか。ビオトープも通年で観察できるということもできないような気がする。花・樹木を植えてもあれだけのスペースでは様々な種類を植えきれない。大鹿村の中央構造線博物館は岩石園である。館内展示だと岩石は小さいものしか置けないが、庭だと大きなものが置ける。</p>
名取委員	<p>総合博物館の敷地内に森林のものを作るなら、手を入れないでほっとくというのがよいのでは。茅野市内で100年以上手つかずの森というのは、標高の高いところや、諏訪大社の森富士見町の渡辺家の別荘といった場所しかない。現在のコンセプトは手を入れずにほっとくということである。自然のままを見せるのが良い。そうすれば鳥も集まってくるし、植物も生</p>

茅野委員	えるということだ。 空中回廊を作るにしても、現在は高い木もないし、科学教育センターも作ればスペースもないのでは。
浜委員	そんなに鳥は来ないのか。
若宮八ヶ岳総合博物館長	事務室の外に百日紅の木があり、そこに止まり木があるが、窓から見ているとヤマガラ、シジュウカラ、コゲラなど結構来ている。
花里委員	京都大学の研究者が熱帯林にタワーを作って観察をしたら、木の上はアリの世界だったという話がある。鳥に限らず様々なものが観察できればよいのでは。
沖野部会長	あまり広くないならば、タワーなら現場を荒らさずに済む。昔自分も木の周りにらせん状の木製階段が作られているタワーに登ったことがあったが怖かった。ビオトープも手を入れない方がよい。お金をかけずに自然にできるように。
浜委員	鏡湖別荘地に蛍の研究者である大場先生の別荘がある。東西のゲンジボタルが同居しているという。今、木舟区の人たちが休耕田にしているので、これを借りて水を入れて復活させたい。イモリやヤナギランなど亜高山帯の霧ヶ峰にあるような植生がある。何とか管理できないか。
沖野部会長	水を引き込むには水利権の問題があるので難しいと思う。手を入れずに100年かければ、良い自然林ができるかもしれない。
石森委員	展示のまとめとして、昨年の答申と大きく離れるものではない。あたらしいものでは最新の技術を使って、壁から外へという工夫が必要だということと、展示物と学習の中身とのリンクということか。 付け加える部分は何かということ下次回までにまとめたい。 また、次回は科学教育の振興について協議する。 答申の該当箇所の抜粋を次回の資料として用意してほしい。
茅野委員	沖野部会長が配布した資料について、1 ページ目の 2 行目の「最高」は「再考」なのでは。
茅野委員	同じ資料で、「科学教育センター」と「科学技術センター」とあるが、「科学教育センター」に統一したほうがよい。
大谷係長	4 次回の予定 前回の会議結果のとおり、9月27日（木）の午後6時から行いたい。 10月の予定は10月25日（木）午後6時から行いたい。  その他、委員から特に質問、意見等はなく、次回以降の日程について了承された。  5 博物館協議会の視察予定 10月20日（土）に博物館協議会の先進地視察の出欠の確認をする。  閉会～午後8時 終了～